

大黒・恵比寿に導かれ 濃い味わいで恋ふ来い



天界から地上へ気枯れ
(穢れ)を祓つためにインターネット
ト配信で日本の祭りを紹介する「おまつ
り新報」。はつもみち酒蔵まつりの「大成
功」を受けて、山口県周南市のJRR徳山駅周
辺を特集することに！今回は、大山国夫社長
(オオクニヌシ)、須佐デスク(スサノオ)、
蛭子記者(コトシロヌシ)の面々で、まずは
はつもみちの角打ちでいっぱいやってい
たら、花町のお茶屋「茶肆(ちやし)
たなか」さんに導かれました。

「おまつり新報」が行く 周南市花町さんぽ(茶肆たなか編)

(ナレーション)——山
口県周南市飯島町の「は
つもみち」の角打ち「RADASA KABA」で
「『原田』のひやおろし
『西都の雫』をいただきたい、
「おまつり新報」の
大山国夫社長と須佐デス
クに新人の蛭子記者。本
日は新聞休刊日対応での
んびりと地上の休暇。三
人の五臓六腑は、肝臓の
「休肝日」ならぬ「活動
日」の様子。須佐デス
クは酒乱です。大山社長
はたまらずトイレへ。蛭
子記者は「取材の電話が」
と言って離席、須佐デス
クを置いて、二人はこっ
そり抜け出すことにしま
した。

◇ ◇
蛭子記者：あー、須佐デ
スクって日ごろの鬱憤
(うつぶん)がたまっ
ているのでしょうか？ 飲
んだら手がつけられませ
んね、社長。

大山社長：うん、あれは
あれで大変なんだよ。い
ろいろなことに対峙して

いる管理職だからねー。
まともに飲んでいたら、
キミもヤマタノオロチの
ように「退治」されちゃ
うから気をつけたまえ。
まあ少しこのあたりを歩
いてみようよ。

蛭子記者：はい。

(ふたりでてくてく。数
分後に開けた道へ出る。
「茶肆たなか」という店
が見えてきた)

大山社長：ここはお茶屋
さんみたいだ。これで
「ちやし」と読むんだよ、
たしか。お茶も日本の伝
統において大変に重要な
品目だ。ここは二人で潜
入取材してみよう。

蛭子記者：おおー、社長
と同行取材とは！ どう
こういうてる場合でもな
くまいりませう。

大山社長と蛭子記者：こ
んにちはー。お茶を一杯
飲ませてくださいます
でしょうか？

三代目ご主人：はい。中
へおはいりください。寒

かったでしょう。

(店内で鹿児島県の知覧の煎茶をいただく二人)

蛭子記者：おー、とても濃厚な味わいですね、ご主人。そういえば、神話大学の農場実習でお茶を摘むときに「一芯三葉(いっしんさんよう)」と教わりました。最初の

三つの葉だけスピーディーに摘んだ覚えがあります。

三代目ご主人：新茶は「一芯二葉」ですね。

蛭子記者：勉強になりました。それから、品種はたしか、えっと、「やきぶた」でしたかね？

(とっさに大山社長が須

佐デスクの口調で制す)

大山社長：ばかたれー、からの焼き鳥のたれー。

「やぶきた」ですよ、まったく。すいませぬご主人、うちの若いのは無学でして(ぺこぺこ)

三代目ご主人：あはは。はい。大丈夫ですよ。ちなみにうちの「ゆたかみどり」という品種も扱ってますよ。

蛭子記者：あつ、ここから観る景色に「大黒様と恵比寿様」が「福の神」として飾られています。社長と私がこの店に導かれた理由はここにもあったのではないのでしょうか？

三代目ご主人：これは、島根県の美保神社のものです。

大山社長：むむー、これは！ご主人、出雲では出雲大社だけでは「片まいり」といいまして、松江市の美保神社とセットで参られると「両まいり」とされ、御縁が成就しやすいと申します。



(ぴろぴろぴろ…蛭子記者に須佐デスクからメールが入る)

蛭子記者：あれ？須佐デスクが面白い写真メールしてこられましたよ、社長。

大山社長：ん？なんだい？

蛭子記者：どうやら、飯島町の徳山大仏Ⅱ写真左上Ⅱをみて、その足で児玉町の児玉源太郎大将の産湯の井戸Ⅱ写真右上Ⅱ



に行つたみたいですよ。それで蟬の抜け殻Ⅱ写真右下Ⅱを撮ってます。これいつか使えますよ。とりあえず、その公園内のベンチでくたばってるそうです。迎えにいかなくちゃ。

大山社長：ご主人お騒がせしました。またゆっくり次の休肝日にこさせていただきます。

お詫びに一句置いていきます。

「冬紅葉 濃い恋来いと粧町」

都都逸的狂歌なら

「冬紅葉 濃い恋来いと粧町 わたしの最良は知覧の煎茶」

三代目ご主人：ありがとうございます。またの御越しをおまちしています。

河村師匠：

「冬めくや濃い恋来いと茶を濁す」

※フィクション大さじいっぱいでおくりしました。ここからだと御縁を大切に。

※「茶肆たなか」は山口県周南市粧町2丁目15。
<https://map.yahoo.co.jp/v3/place/5FxsO2QPL>などで電話番号などご確認ください。

